東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部
２０１７年５月１日発行
第２５号（通巻第５７号）
発行者：岡村広志　編集者：教育・広報部

ＪＲ発足３０年
労働運動の一元化を目指す大集会

新潟地本は4月16日、新潟東映ホテルにおいて「JR発足30年　労働運動の一元化を目指す大集会」を開催しました。
　250名を超える仲間が結集し、それぞれの、そしてお互いの30年間の労働者人生を振りかえると共に、新たなたたかいへのスタートを切りました。

語ろう！目指そう！そして残そう！未来へつなげる労働運動

4月1日に発足30年を迎えたJR東日本は、組合員・社員の努力により莫大な利益を生み出す企業へと成長を遂げました。一方で経営側は強硬な姿勢を強めており、分散した労働側の力を結集し、労働運動の一元化を実現する事が重要です。
　会社発足から今日まで労働運動を創り上げてきた全ての組合員と共に、この30年間の活動を振り返り、新たなたたかいに向けてスタートを切る場として大集会を開催しました。

今こそ要求に結集するたたかいを

主催者挨拶　新潟地方本部　岡村執行委員長

　先行不透明の中で出発したJR東日本を、この30年で営業収益は約3割増、約4倍の経常利益を生み出す企業へと成長させてきた。現場で働く全ての労働者の血と汗と涙の努力で創り出してきた結果だ。
　しかし今の経営側の姿勢はどうか？過去最高の利益を生み出しても社員に還元をせず、現場実態を無視した様々な効率化施策の波を加速させている。
　新潟支社でもワンマン運転や駅業務委託の拡大など労働強化が図られている。経験不足や技術力の低下、人材育成の問題など、あらゆる系統で起きている事象は全てが安全に直結する課題だ。
　しかしそれを許してしまっている労働側の問題がある。賃上げや一時金などでさえ労働側の統一したたたかいが作れずにいる。相手のある話だが、実現するために自分たちはどうするのかが重要だ。
　職場では人事賃金制度の見直し以降、利己主義、他人に関心がない風土が作られている。未来につなぐ鉄道の安全を実現するため、労働運動の一元化のスタートを切ろう！
　あと5年で昭和採の先輩は退職を迎える。会社がよりストロングになってくる現状下で、そこからの行動ではもう遅い。
　だからこそ今日に至るまで労働者魂の灯を消すことなくたたかってきた昭和採の先輩には考えてほしい。職場に労働運動を残すために何が出来るのかを。平成採の仲間は実践しよう。職場で共に声をあげたたかう仲間づくりを。
　未来にわたって職場に労働運動を残し、労働者の団結を実現に向け決起しよう。組合員ひとり一人が歩んできた「道」は違えど、その「道」を共有し、仲間に想いを馳せながら未来に向け進んでいこう。
　全組合員で労働運動の一元化に向け、誰かのせいにすることなく、限界を作らず、失敗を恐れず課題を克服すること、そして要求に結集するたたかいを今こそ実践していこう！

◆中央本部の渡辺執行委員長、生田書記長、藤本組織部長、宮下執行委員をはじめ、各地方本部や、広域異動により現在も首都圏で活躍されている組合員の皆さんからも来賓として出席いただき、ご挨拶をいただきました。
◆14名の仲間から、この間のエピソードを含めた決意表明を受け、1人ひとりがそれぞれの時代をたたかってきたことを知ると共に、たかいへの決意を固めました。
◆今集会は組合員1人ひとりが主役であることから、準備を含めて全組合員が関わることにこだわり創り出してきました。
◆集会を成功に導いた組織の力を確認し、労働運動の一元化実現に向けてスタートを切りました。

壁を超えて鉄道労働者の団結を

基調報告　新潟地方本部　鳥屋書記長

　今集会の最大の課題は労働運動の一元化実現に向け組合員自らがスタートを切ることだ。単に思い出を振り返る場ではない。
　一元化を目指す事が一人ひとりの課題となるためには、この集会そのものが課題となることが必要だ。これが労働組合が創る取り組みであり教訓だ。
　JR発足30年が経ち、今日の現状をどの世代も否定的に捉えているということが共通の認識だ。それぞれの歩んできた労働運動の道を総括しなければ変革は進められない。
　今日まで歩んできた道に自信を持ちつつも、頑張っているというレベルを自分で決めているスタイルからの脱却が必要だ。
　労働環境、労働条件、生活の向上などは私たち労働者にとっては同じ問題であり所属労組により変わるものではない。
　JRをはじめ様々な鉄道会社があるが、日々安全安定輸送に額に汗し働いている仲間だ。会社間、支社間、所属労組、職種や系統それぞれに壁があってはならない。より信頼される鉄道を作り上げていくために、北海道から九州まで鉄道労働者の団結を求めその壁を壊していこう。
　労働環境、労働条件、生活の向上を実現し、労働者の命を守り、不幸な仲間を出さないために、今職場にある問題を一つひとつ解決し実現していこう。